

アートがひらく保育と子ども理解

—多様な子どもの姿と理解の共有を目指して—

2019. 7. 29 (月) 14:30 - 16:00

東京学芸大学 西講義棟 W302

乳幼児期の子どもにとってアートは自分を表出し表現する言葉であり、素材や物、形や色のイメージを通して世界と出会い、かかわっていく創造的な行為であり営みです。アートの実践を通して見えてくる多様な子どもの姿と子ども理解。公益財団法人日本生命財団平成 29 年度委託研究の二年間の成果から、アートが開く保育と子ども理解の可能性と、多様な人間理解と共生に向けた保育実践の可能性について考えます。

プロローグ 連携造形活動を軸にした保育の質的深化の取り組み

笠原広一 (東京学芸大学准教授/美術教育)

鉄矢悦朗 (東京学芸大学教授/デザイン教育, 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所副理事長)

真木千壽子 (学芸の森保育園 園長)

講演 -1 子ども理解を深める親子ワークショップの実践

—学芸の森保育園での遊具を使ったワークショップ実践の考察に基づいて—

小室明久 (中部学院大学短期大学部 幼児教育学科 助教)

多摩美術大学美術学部芸術学科卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科美術教育専攻修了後、東京都公立小学校図画工作専科教員を経て現職。専門は幼児の造形活動における質的研究、美術教育史研究。

講演 -2 生活を通じた子どもの多様性の理解

—「ありふれたもの」に潜在する価値との出会いから—

山本一成 (滋賀大学 教育学部 講師)

京都造形芸術大学こども芸術大学にて3年間保育実践に従事したのち、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程を修了。専門は臨床教育学で、保育環境と想像力の研究を行っている。

トークセッション 山本一成, 小室明久, 鉄矢悦朗, 真木千壽子, 笠原広一

■助成：公益財団法人日本生命財団 平成 29 年度委託研究 課題名「幼児教育における子どものアート活動を媒介とした多様性の涵養と親の学習支援プログラムの構築」(代表：笠原広一)

■主催・申し込み先：東京学芸大学 (美術科教育学分野) 笠原広一研究室 [kasahara\(a\)u-gakugei.ac.jp](mailto:kasahara(a)u-gakugei.ac.jp)
※(a)をアットマークに変えてください。申し込み受付後に会場案内を送ります。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 Tel & Fax: 042-329-7610